

福岡県立大学同窓会会報

発行日 平成9(1997)年7月1日
 発行者 福岡県立大学同窓会 会報編集委員会
 住所 福岡県田川市伊田4395
 福岡県立大学同窓会事務局
 TEL 0947-42-2118

同窓会の発展を願って

福岡県立大学同窓会会長 矢津田 克子

本同窓会が、福岡県立大学同窓会という名称になって、初めての同窓会総会が、8月17日に小倉会場で催されることになりました。県大卒業1回生、2回生を迎えての第17回同窓会総会は、ますます活気づくことでしょう。

保母養成所同窓会からスタートして、社会保育短期大学同窓会として引き継がれ、更に福岡県立大学同窓会として若い世代に支えられることになり、何かふつふつとした期待感があふれる思いでございます。

私は1989年の夏、第13回同窓会総会(田川会場)で会長として承認をうけました。副会長には、養成8期の上里智沙子氏と社保短2期の内田ちづる氏。事務局には、学生課長の広末氏が要としておられ、それを助手で社保短7期の町井輝美氏が支えてくれました。丁度、社会保育短期大学が4年制大学へ移行する話が持ち上がっている時期で、福岡県立大学開学に向けての取り組みを皮切りに、この8年間同じメンバーで努めてまいりました。途中から、副会長に社保短4期の川上鉄夫氏の助っ人を得、また附属幼稚園の糸静子先生、中藤広美先生にも大変お力添えをいただきながら今日に至っております。長い道のりだった同窓会の一本化も実現の運びとなり、「ほっ」と胸をなでおろしているところです。

1992年に福岡県立大学が開学され、翌年の3月の25期生卒業を最後に社会保育短期大学が開学されました。すべてのものが大学開学に向けて浮き足立つ中、25期生の皆さんは、社保短生としての存在を見失わず、県大生の後輩へ見事な引継ぎをして卒業して行ったけなげな姿が、印象深く私の心に残っています。

県立大学が年々充実していく中、社会保育短期大学同窓会は県立大学同窓会との一本化を目指し、その実現に向けて努力してまいりました。1993年の「広げようつながりの輪」は、田川の地域の人たちが巻き込んで、県大生、社保短生、養成所の皆さんをしっかりと一つの輪につなぐことが出来ました。また、福岡県立大学同窓会としての会則も、委員会を結成し検討を重ねてまいりました。第16回同窓会総会で会則改正の承認を得て、卒業前の県大1回生との話し合い、同窓会一本化の合意を

みることができました。

早いもので、福岡県立大学も今年で5周年を迎え、去る5月22日に開学5周年と大学院開設記念式典が催され、私も同窓会を代表して出席しました。わずから5年の間、大学院開設までこぎつけた驚異的な発展に、安藤学長はじめ、教職員の方々のなみなみならぬ努力が、うかがえ、敬意の念で胸がいっぱいになりました。福岡県立大学は田川のシンボルとして、益々発展していくであろうことを実感すると共に、その大学に恥じない同窓会として共に歩かなければならない責任の重大さを、とりはだ立つ思いで受けとめました。多様化した社会のニーズに応じた福祉のあり方を、大学を通して学び、大学と共に成長し、存在意識のある同窓会になることを願わずにはいられません。

卒業生サービスセンター(ASC)のことなど

福岡県立大学学長 安藤延男

同窓会員の皆さま、お元氣でご活躍のことと存じます。

市役所、特定郵便局、幼稚園、保育所などで、思いがけず「卒業生です」と声をかけられることがあります。それは私にとって非常に嬉しいことです。去る3月の半ばなど、西鉄春日原駅からクローバープラザに向かう歩道上で、社会人1年生のI君に呼び止められました。大手住宅会社の頼もしい営業マンぶりを目のあたりにしたのが嬉しくて、帰学後早速、就職担当の教職員にそのことを報告しました。

さて、大学はこの春、開学6年目を迎えました。同時に大学院(人間社会学研究科)も発足しています。来年度は、附属幼稚園を改組して、人間福祉社会研究センター(仮称)を設置する予定です。

また、今年度から附属図書館の開館時間を夜8時30分まで延長しています。これで、念願の「附属図書館の学生・地域への開放」も一歩進んだこととなります。皆様のご利用をお待ちしております。

一方、大学の中長期将来構想の検討が急ピッチで進んでいます。来たるべき新学部や新大学院と現学部や現大学院とが、教

育・研究の面で相互にパワーを強めあえるような関係になるのが望ましいと思います。つまり、今の学部・大学院の専門分野と水と油のような関係にあるような専門分野の学部・大学院は、当分の間増設の対象にはならないということです。ちなみに、現行の「人間社会学部(福祉社会)」からすれば、「保健看護」や「福祉エンジニアリング」「総合政策」などの諸分野を増設し、最終的には広義での「福祉系の総合大学」を狙うつもりです。もちろん、今は「絵に描いた餅」の域をでません。しかし、県当局から我が大学に学部増設等の声がかかるようなことがあれば即座に応分の協力ができるよう学内体勢だけは整えておかねばなりません。

今年も、本学では各種公開講座が目白押しです。『大学広報』をご覧のうえ有効にご活用下さい。これとの関連で、学部・大学院とも「県民の生涯学習に貢献する」ことが設置趣旨の一つである本学では、同窓生サービスも、もっと組織的に行う必要があると考えています。そこで、先日の将来構想委員会には、

「同窓生サービスセンター(ASC)」の構想を提案しました。いわゆる生涯学習社会では、大学といえども「最終学歴」とはならないという前提に立つからです。サンフォードらの編集した『アメリカの大学』には、「アラミナイサービス」という1章が設けられるくらいです。卒業生をターゲットにした学部・大学院特殊講座や短期ワークショップ、ビデオや録音テープの教材の貸し出しなどが主な業務内容です。また、そうした発想に大学が立つならば、同窓会活動などを本学の正規の営みの中に有機的に取り込んでもおかしくないはずで、こうした課題を、本学も前向きに検討して参ります。また、年1回、創立記念日か大学祭の季節に「ホームカミング・デイ」を設けてはどうかと思いつつ、ここ数年果たせずにおります。同窓会の方でもご検討下さると有り難いのですが。夏の総会で、皆さんにお目にかかることができるのを、今から楽しみにしております。最後になりましたが、会員の皆さまのご多幸とご活躍をお祈り申し上げます。

リニューアルした同窓会

福岡県社会保育短期大学同窓会は、95年9月10日の第16回総会で、同窓会会則改正の承認を得て県大生と話し合い、同窓会を一本化するすることが決まりました。翌96年4月1日をもって、『福岡県立大学同窓会』として、新たな一歩を踏出しました。

現在、同窓会事業の活性化・事務局体制の確立を目指し、同窓会室の設置を大学に要望しています。ここで、同窓会の主な事業を紹介します。

1. 同窓会総会

同窓会総会は同窓会の最高決議機関で2年に1回開催されています。総会当日は、会員の研鑽・親睦のために記念講演や懇親会を行っています。今年は総会開催年で、福岡県立大学同窓会になって初めての同窓会総会となります。県大卒業生も懇親会などの企画を担当し、実りある総会の実施に向かっていきます。別紙ご案内をご覧の上、是非ご参加下さい。なお、95/96年度事業報告、97/98年度事業計画につきましては、7月6日の幹事会を経て、総会に提出されます。

2. 会報の編集発行

同窓会会報は本号で第5号となります。幹事会にて、会報編集委員会設置の承認を得て、養成所卒業生、社保短卒業生、県大卒業生からなる編集委員会を開き、編集にあっています。

会報には現在の県大の状況、会員の様子、就職情報など会員

に親しみやすくかつ有益な情報を届けられるよう、努力していきます。どうぞ会報に対するご感想、ご意見など同窓会事務局まで、お寄せ下さい。

3. 同窓会名簿の編集発行

同窓会名簿は、会員の動向を知り、会員同士の連絡を取るのに利用される他、実習先の選択や、県立大学生の就職にあたっての参考資料として、職場開拓・先輩訪問などにも利用されています。発行は5～10年に一回となっていますが、住所・職場変更の都度事務局までお知らせいただければ、リアルタイムの名簿を作成することができます。どうぞご協力下さい。

4. 大学の発展に関する協力

96年には日中フォーラム、97年は日独フォーラムに協賛金を支出するなど、協力しました。

また、去る5月22日の福岡県立大学開学5周年記念事業には、同窓会会長・副会長・県大卒業生代表が出席しました。

5. 会員及び学生の就職活動援助

在学中の県大生(準会員)に対する就職活動の援助として、卒業生から送られてくる求人情報の提供を行っています。また、就職ガイダンスを開催しています。

今後は、会員にも、転職・就職情報の提供を行ったり、社会福祉士の受験資格変更に伴う情報を提供できるような事務局体制を整えるよう、努力していきます。

県大生の就職状況

(県立大学広報参照)

平成8年度卒業生の就職状況は、3月末日現在で、就職者116名(就職希望学生の92%)である。男女別では、男子36名(100%)、女子80名(89%)である。就職先は3つの分野に分けられる。

1、民間企業で、サービス業、小売・卸業、金融保険業、製造業等で社会科学に多い。

2、保健・医療・福祉施設関係、老人ホーム、老人保健施設等の、障害者、児童の施設がある。

3、公務員・学校・幼稚園教諭、保育所保育等で、公務員合格者は大変厳しい状況にある。最近では保育ニーズの多様化、家庭支援の必要から4年生大学卒の保育者を希望する保育施設も出てきた。

この他、大学院、他大学、専門学校へ7名進学した。

第2回卒業生就職状況一覧表(平成8年)

(H9, 5, 31現在最終確定分)

	社会科学	社会福祉学	人間形成学	計
卒業生数	49	49	49	147
就職希望者数	38	45	43	126
就職決定者数	35	44	40	119
民間企業	28	5	13	46
社会福祉施設	1	19	5	25
社協公社		4		4
保育・幼稚園			9	9
病院		12	8	20
公務員	4	3	4	11
教員	1			1
その他	1	1	1	3
決定率(%)	92	98	93	94
大学院	4		3	7

第1回卒業生就職状況報(平成7年)

(H8, 3, 31現在)

	社会科学	社会福祉学	人間形成学	計
就職希望者数	31	46	38	115
就職決定者数	29	44	34	107
民間企業	23	3	14	40
社会福祉施設	1	19	4	24
社協公社		5		5
保育所・幼稚園			7	7
病院		14	4	18
公務員	4	2	4	10
その他	1	1	1	3
決定率(%)	94	96	89	93
大学院	1	1		2

*福祉施設は老人保健施設を含む

同窓生の皆さん、職場あるいは関係機関での求人情報がありましたら県大学生課までご連絡下さい。

県大学生課(TEL0947-42-2118)

大学教員選任

平成8年からの先生方の簡単な動向についてお知らせいたします。

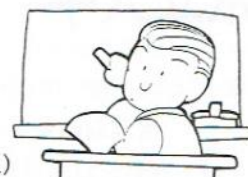
<退官された先生>*かつこ内は県大在職期間です

佐藤直樹助教授(S60,10,1~H6,3,31社保短、
H5,4,1~H8,3,31県大)

荒牧正憲教授(H5,4,1~H8,3,31)

安部博純教授(H5,4,1~H9,3,31)

清水正照教授(H5,4,1~H9,3,31)



中川哲也教授(H5,4,1~H9,3,31)

尚、荒牧先生・安部先生・清水先生・中川先生は、県立大学5周年記念式典において、名誉教授を授与されました。

<新しく着任された先生>

齊藤芳浩講師(H8,4,1)

宮崎昭夫教授(H9,4,1)

久保美紀助教授(H9,4,1)

訃報となりますが、平成8年2月19日病氣療養のため休職中でありました、サンタ・ロマーナ先生が死去されました。ご冥福を心よりお祈りいたします。

県立大学附属図書館、地域に開放

図書館が一步あなたに近づき、貸し出しもOK

県立大学では1994年3月に新図書館が完成しました。社会保育短期大学の図書に加え、県立保母養成所の図書が全て移管され、さらに県大開学当初からの計画的な図書の購入により現在8万7千冊を越える蔵書を備え、ますます重要な研究の拠点となっています。また、館内にはビデオやカセットを視聴できるAVコーナー、図書の検索及びインターネットのできるコーナー、新聞や雑誌等を自由に閲覧できるブラウジングコーナーなどがあります。

今年度より図書館開館時間が延長され、地域により親しまれる図書館となりました。特に卒業生には、貸し出しのサービスも行っています。どうぞ、ご利用下さい。

〈開館日・開館時間〉

月～金 9:00～20:30 (大学の授業期間)

月～金 9:00～16:30 (大学休暇中)

※月末は館内整理の為、休館です。そのほか、開館日・開館時間については、臨時に変更がありますので、お問い合わせ下さい。

〈貸し出し〉(卒業生のみ)

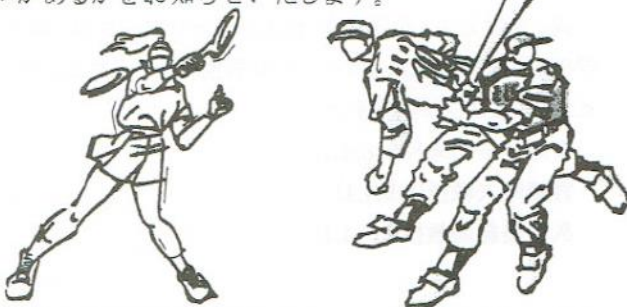
期間—1週間 貸し出し—3冊まで

※一般向けには貸し出しは行っていません。卒業生に限ってのサービスです。図書のみで、雑誌、ビデオ等の貸し出しは行っていません。
※図書閲覧・貸し出し・AVコーナーの利用等、まず図書館カウンターに卒業生である旨申し出て下さい。



県立大学 サークル紹介

県立大学には、現在たくさんのクラブや同好会のサークルがあり、活発な活動をしています。今回はどのようなサークルがあるかをお知らせいたします。



それぞれのクラブの活動内容については、次回からの会報で順次ご紹介していきたいと思っています。

体育系サークル

水泳部 男子バスケット部 女子バレー部
硬式野球部 サッカー部 バドミントン部
女子バスケット部 硬式テニス部
弓道同好会 ラグビー同好会
ソフトボール同好会 男子バレー同好会

文化系サークル

FPUフィルハーモニーオーケストラ 美術部
音楽部「歌姫」 魚正 劇団らくがき
軽音楽サークル「万屋GSS」 交響吹奏楽団
情報誌サークル「ばお」 舞踏研究部
愛好会チーム魂ジャパン 写真部
民間企業就職連合会

ボランティア系サークル

HAND-POST(手話サークル) 紙ひこうき
つくしんぼ そよかぜ 献血推進サークル
湯山荘ボランティアサークル

附属幼稚園の今とこれから

社保短保育科15期生 幼稚園教諭中藤広美
幼稚園実習をした方も、しなかった方も学内の1号館横にあった附属幼稚園の事を覚えていますよね。「え?!」なんて言う方は、あの大きな鈴掛の木やブランコ、コンクリートでできた「山トンネル」という遊具があったところです。ここではその附属幼稚園の事について大ニュースがありますのでお知らせします。

既に噂で「附属幼稚園の今とこれから」を耳にした方もいるのではないのでしょうか。

附属幼稚園の今は、年長5歳児「すぎな組」1クラスのみとなっています。そうです、来年で廃園になります。

短大時代は年間110人も受け入れていた実習生が今年度は5人になりました。また、毎年抽選をしていた園児募集もこの数年、その必要がなくなり、今年度は30人定員中28名でのスタートとなりました。こうした状況及びこれからの附属幼稚園のあり方を考えて「発展的改組」の形で来年度より附属人間福祉社会研究センター(仮称)に生まれ変わる予定です。

同窓生の声・声・声・声……

<私の就職活動>

県大 社会学科2期生 矢元 博之

ちょうど一年前、私も現在の4年生と同じように就職活動の真っ最中でした。実際に自分が社会への仲間入りをした現在、数ヶ月しか経過しておりませんが、大変懐かしく感じております。自分が就職活動を開始した当初は、県立大の歴史の浅さ(OB,OGが1期生しかいない)、知名度の低さ、情報収集や交通手段の不便な田川に住んでいること不安に感じていました。実際に就職活動を経験して、①新設大学だが公立大学ということで、企業に相手をしてもらえたこと(他の歴史ある国立・私立大を脅威に感じたことはなかった)、②新設大であることが逆に新鮮に企業側に見られた(他大学とは異なりマニュアル化していない、特殊な学部であるので関心を持ってもらえた)、③規模の小さい大学であるだけに、学生課の方が親身になって協力してくれた(自己理解など)、④歴史が浅い分、企業の規模に恐れること無く、自分の行きたい企業にアタックできた、など県立大だからこそ出来たことが多くありました。その反面、交通の不便さ、求人件数がまだまだ不十分であること、小規模大学だけに同じ職種の学生が

少なく、情報交換があまり出来ないなど問題点も、多くあるとも感じました。これから県立大の就職状況の改善、向上には、学生の就職に対する意識改革(県立大生は、のんびりしている)、大学側の更なる全面バックアップ、社保短と県立大のOB,OGの協力が必要と考えられます。

(MrMax田川バイパス店勤務)

<私の職場紹介>

県大 社会福祉学科1期生 高上 実穂

福岡県立大学を平成8年3月に卒業し、4月から、豊前市にある精神科の大川病院でPSW(精神科ソーシャルワーカー)として勤務しています。

当院は精神科180床、痴呆症患者治療病棟60床、計240床の病院です。また、当院のある豊前市は、福岡県のはずれ、大分県との県境に位置しています。こうした立地の関係上、患者さんも両県にまたがっており、同様に行政機関、制度も両県にまたがっているため、手続きの際などは右往左往することが多くあります。

現在、当院においてPSWは1名のみです。新しい職種ということで、職員の皆さん、患者さんたちに正確に理解されるまでにはもう少し時間が必要になってくるのではないかと思います。2年目に入り、次第に慣れてきてくれたように思います。

まだ、自分がPSWとしてふさわしいかどうか、疑問の残るところですが、焦らず、がんばりすぎず、仕事をしていきたいと思えます。

<ソーシャルワーカーの仕事続ける為に>

社保短 社会福祉科19期生 下田 薫

ソーシャルワーカー(以下SWと略す)として働いて10年。いつも何かの壁にぶつかってきました。病院におけるSWの認識・理解度の低さ、自分自身に医学知識が全くない事、面接技術の未熟さ、SWの仕事を理解してもらう事の難しさ等々。時には、「私にはSWはむいてないのでは?」と、思い悩む日々もありました。そんな私が参加した研究会で、先輩のSWは、「相手の感情を理解するには、感性の豊かさが必要であり、それは仕事の中だけではなく日々の生活の中でも磨かれるもの。」と。又、別の方は、「援助の技術を系統だてて考える事と、意見を言語化していく能力の必要性」を、教えて下さいました。SWには、幅広い知識と技術、自分の仕事を分析的に考える目、知性と感性の両方が必要といひます。この事は、私がSWを続けていく上で大きな影響を与えました。

現在、保健・医療分野におけるSWには、国家資格があり

ません。有資格者ばかりの病院組織の中で働く事は、容易な事ではありません。だからこそ、SW一人一人があらゆる面で、日々努力する必要があるのだと思います。

私は今、理由あって仕事を休んでいます。機会があれば、SWの仕事をしたと思います。そして、SWの基本的視点・姿勢を見失わず、常に学び続けたいと考えています。

<簡単な私の近況報告>

社保短 保育科15期生 垣原 恵子

先日久しぶりに懐かしい声を電話で聞きました。幹事をしてくれている友達から「施設で勤めている人の原稿がほしい。」と言われてびっくりしました。他にもたくさんいらっしゃるはずなのに、よりによって私が……。泣く泣くしぶしぶペンを執った次第です。

早いもので、福岡県社会保育短大を卒業できてもう14年になります。頭と体は年々衰えつつありますが、内面は、あの頃とほとんど変わっていないような気がします。

保育園か幼稚園の仕事を夢見ていた私ですが、気がつくと心身障害者福祉センターでの仕事が10年めになりました。しかし実力は全く伴っていません。

昨年、身体障害者デイサービス事業(身障デイサービス)が市で初めて実施されました。何もかも初めてのことで、本当に苦しい一年でした。とりあえず、何とか2年めを勤めています。障害も年齢も様々な利用者、何をして過ごすか？ということが一番の悩みです。そして、どの職場も同じですが人間関係はむずかしいですね。ただ、まごころをこめて一所懸命すれば、いつかはうれしいこともあるものだ、と信じています。

「この身障デイサービスができてよかった。」と言って下さる人が、まれにいます。利用者の笑顔を見ると、不安な気持ちも悩みもふっとんでしまいます。世の中いろいろなことばかりじゃないけれど、つらいことばかりでもありません。正直いって、いつまでこの仕事を続けられるかわかりませんが、あまりくよくよせず、あれこれ考えず、マイペースで生きていきたいと思っています。どうか皆様もがんばって下さい。ご多幸をお祈りいたします。



<高野山での同窓会>

社保短 社会福祉科3期生 榊 京子

「5月の連休明け。桧垣ホームの同窓会を高野山でするのであなたも参加しない」とこの3月に電話。短大時代はホーム制があり、よくみんなでホーム室で話し込んだり、ホーム担当教官の自宅に押しかけては深夜まで飲み会をしたり教官や

学生の中に密接な人間関係があったことが思い出される。

今はただ毎日黙々と働くばかりで、余裕のない私。仕事が……と思ったものの、この機会を逃がしてはいつみんなに会えることか。「明日またね」と当然のように再会出来ることを信じていたあの日々。今は親しい人が突然いなくなる。そんな年齢を迎えようとしている。「よし行こう」仕事を終え先発したみんなの後を急ぎ追う。先生から「一人で大丈夫か」と細かな道案内の電話があった。社会人になっても昔と変わらず心配をさせていただきありがたさ。温かく迎えられホッとする。久しぶりの恩師と同級生。長い間会わなかったのが不思議なくらい急にタイムスリップ。若い日の顔になって大声で歌い笑い、夜の高野山を闊歩する。

親離れが進み、自由に学生生活を謳歌している娘が羨ましく、「学生時代に友達を大切に、いろいろな経験を共にしなさい。すばらしい時代よ」といつも言っていたが、そんな私にも青春時代があったのだと。ケラケラと屈託なく笑っていた自由な時間が甦る。みんな社会的に責任が重くなる年代となり、人間関係の煩わしさに頭を悩ませることも多いこの頃。かつて同じ時間を共有した仲間達はこだわりなく、素直に自分を取り戻させてくれる。

団塊の世代の私達は超高齢化社会の中で、相互に支えあって生きなければならない時代をまもなく迎えるとしている。私にとって学生時代の友人達は何ものにもかえがたく、生涯の宝であり大切に長く付き合っていきたい。

新緑の高野山から現実の世界に戻つつ、爽やかに大声で「ただいま」と帰った。



<思い込み様々>

社保短 保育科1期生 岩野 佐栄子

「お母さん、『枝豆』と『大豆』は、違う豆よね？」と、勢い込んで電話してくる娘。「同じ豆よ」「うそ〜」「うそ〜って、知らんやった?」「あぁあ、今日の私には、私か」と、がっかりした声で電話を切る娘。水にもどす前の丸い大豆を台所で見たことのある娘に、私は何もかも伝えたつもりでいたのに、枝豆との形の違いだけが印象に残っていたらしい。

先日はこの娘に、「お母さん、今の人は『ブツンする』とは言わんと思うけど…。それを言うなら『キレル』よ」と、子育てに悩む母親の気持ちを表現した私の文章にチェックを入れたばかり。確かにその母親は『キレル』と言ったのに、私の頭には『ブツン』と記憶されたのは、年の差故の思い込み。

「日本人は、『おはよう』と言うときに、頭を下げないと思いましたが」と、思い込んでいたのは、韓国からやってきた若いお母さん。そう言われてはじめて、「おはようございます」と丁寧

に頭を下げてあいさつするよりも、「おはようございます。今日もお天気ですね」と、相手の目を見ながら会話のキッカケ作りばかりをあせっていた自分に気づく。私の方は、きちんと頭を下げていていると思いついでいたのに。

様々な思い込みに気づく度に、反省するよりも笑って楽しんでしまうのは、わたしの悪い癖です。



<思い出>

養成所 4期生 糸 静子

養成所を卒業してもう40年にもなります。卒業した年の7月から、同窓会、後援会が中心となり在校生も含めて、短大昇格運動がはじまりました。その後、長年たゆみなく続いた熱心な運動と、関係者の方々の並々ならぬ努力の結果、昭和43年に短大が開学の運びとなりました。同期生のお父さんが後援会の会長で、衆議院議員でありました。中央で強力に文部省や厚生省に短大昇格が必要であることを訴えられました。4期の人たちで議員会館の先生に手紙を書いて送ったこともありました。先日、昔の書類を整理していると、筆で書かれた特徴ある大きな字の手紙が出てきて、当時を懐かしく思い出しました。

児童福祉法ができて間もない頃は、福祉行政も行き届かず、保育所をはじめ福祉施設の現場はいろいろな面で厳しい状況にありました。養成所の卒業生はそのような中で長年使命感をもって献身的に働いてきました。そういうことが認められていろいろな賞や感謝状をいただいた同窓生も数多くおられます。今年と一昨年同期の友達が褒章を受賞し、過年二人の先輩が受賞されました。褒章についてはいろいろな考え方もありますが、私は、受賞された方々の真摯な努力を率直に認め心から拍手をおくりたいと思います。同窓生として誇りにも思っています。

短大昇格に向けての運動、さらに大学移行に向けて、長年協力してきたからでしょうか、養成所卒業生は母校への思い入れもまた特別なものがあるように感じます。養成所や短大卒業生がいる職場で卒業生や実習生を受け入れた時は親身になって指導がなされています。いろいろな面で母校には協力的で、意見もよくまとまります。でも、養成所の卒業生も定年を迎える人が多くなり、職場を離れ高齢化してきました。短大卒業生も多く各地で活躍されています。大学も開学して5周年を迎え、大学院も開設されました。これからは、若い人たちの時代です。若い人たちが中心になり、同窓会を盛り上げ、母校のため、また後輩のためにもよき働きをしていただきますようお願いいたします。(附属幼稚園副園長)

<同窓会に寄せる思い>

養成所 8期生 上里 智沙子

「県立保母養成所」を卒業し、早30年の月日が流れました。その間、我が母校は保母養成所から短期大学昇格、そして福岡県唯一の社会福祉系大学へと目覚ましい発展を遂げました。

この陰には、幾多の険しい道程を乗り越えられた諸先生方、先輩方の努力が根底にあることは言うまでもありません。4年間、同窓会副会長という重責に携わり、開学式・開学式に参加させて頂き、その学校の発展を垣間見ることができました。そして、後輩の方々に素晴らしい伝統が受け継がれていることに歓びを感じました。私自身も同窓会に参加することにより、学長はじめ諸先生方との交流、情報交換ができ、随分視野が広がりました。

卒業して、まだ1度も学校に足を運んでいない方もおられると思いますが、是非県立大学へと生まれ変わった母校を訪れ、第一線で活躍されている先輩方、後輩方との繋がりを密にしていって欲しいと願わずにはられません。

これから21世紀に向けて、ますます『福祉』の重要性が叫ばれる時代になると思われますが、専門分野はもちろんのこと、「知識」だけではなく、社会にでてからも役立つ「知恵」をしっかりと身につけた人材を育てて欲しいと思います。

社会福祉は、物が相手ではなく、人間が相手であるのですから……。

最後に当事務局の後輩の方々が、ご自身の仕事を持ちながらも同窓会の仕事を全面的に引き受けて下さり、感謝の気持ちでいっぱいです。今後の我が母校のますますの発展と同窓会の充実をお祈り申し上げます。

お知らせ

編集委員会では、同窓会会報に同窓生の声をお待ちしています。次号は、来年発行予定です。身の回りのこと、同窓会会報の感想、最近思っていること、同期会の様子、先輩に言ってみたいこと、入社苦労話、就職奮闘記、先輩に伝えたいことなど内容は問いません。600字程度を目安に、タイトルをつけて、同窓会事務局までお送り下さい。FAXでも受け付けております。

(FAX 0947-42-6171) 県大同窓会事務局宛

<抜粋> 同窓会会則(案)

福岡県立大学同窓会会則

(名称)

第1条 本会は福岡県立大学同窓会と称する。

(会員)

第4条 本会は次の会員をもって組織する。

正会員 福岡県立保母養成所卒業者、福岡県社会保育短期大学付設保母養成所卒業者、福岡県社会保育短期大学卒業者、福岡県立大学卒業者、福岡県立大学大学院修了者

準会員 福岡県立大学入学学生、福岡県立大学大学院入学学生、福岡県社会保育短期大学付設保母養成所中途退学者、福岡県立保母養成所中途退学者、福岡県社会保育短期大学中途退学者

特別会員 現旧母校職員及び特に本会に貢献ある者で幹事会が承認した者

(事業)

第5条 本会は次の事業を行う。

- (1) 会誌及び会員名簿の編集発行
- (2) 会員親睦行事
- (3) 大学発展に関する協力
- (4) 会員及び新卒者の就職援助
- (5) その他目的達成に必要な事業

(役員の数及び任務)

第6条 本会に次の役員をおく。

- (1) 会長 (1名) 本会を代表し、会務を掌理する。
- (2) 副会長 (3名) 会長を補佐し、会長事故ある時は会長が指名した1名がこれを代行する。
- (3) 常任幹事(若干名) 常任幹事は、本会の常務を決議執行する。
2常任幹事は常任幹事会を構成し、本会の常務処理にあたる。
- (4) 幹事 本会の目的の範囲内にある重要事項を審議する。
- (5) 監事 (2名) 事業並びに会計を監査し、幹事会に報告する。
- (6) 名誉会長 会務全般について、会長の諮問、相談に応じ、意見を述べることができる。

本号に抜粋した会則は、95年同窓会総会において改正が承認された主な項目と今回改正が必要とされている項目です。

前回総会時の改正点(決議済み)

- 1, 福岡県立大学との一本化にともない、名称を改めた。(第1条、第4条)
 - 2, 今後の同窓会員の増加を考慮し、副会長を2名から3名とした。(第6条)
 - 3, 会員の増加、郵便料金の値上げ等による、財政状況悪化の改善、また、今後の同窓会活動の活性化・事務局体制の確立のためにも、終身会費制を改め、年会費を設け、入会金を増額した。(第14条、第15条)
 - 4, 同窓会費、入会金以外の収入を管理するため、特別会計を設けた。(第16条)
- 尚、この会則は平成8年4月1日から施行している。

今回の改正点

本年5月福岡県立大学に大学院が設置されたことにより、大学院入学者を準会員、大学院修了者を正会員として迎える。

(第4条)

第4条改正については、同窓会総会で、審議するものとする。

(総会)

第9条 総会は本会の最高決議機関であって2年に1回開き、会長が必要と認めるとき臨時総会を開くことができる。但し、臨時総会は緊急を要しやむを得ない場合にかぎり幹事会をもってこれにかえることができる。

総会においては、次の事項を審議決定する。

- (1) 事業計画及び事業報告に関する事項
- (2) 予算及び決算に関する事項
- (3) 役員の選出及び承認に関する事項
- (4) 会則の制定及び改正に関する事項
- (5) その他、会長が必要と認める事項

(事務局)

第13条 本会は事務処理をするために事務局をおく。

事務局は、事務局長(1名)、事務局員(若干名)をもって構成し、会長が委嘱する。但し、会長は必要な場合、学長の同意を得て、母校教職員に委嘱することができる。

2 事務局員は、会長の命を受け次の事務を処理をする。

- (1) 総会及び幹事会等会議に関する事務
- (2) 事業執行に関する事務

(3) 会計に関する事務

(4) その他、会長が必要と認める事務

(経費)

第14条 本会の運営に要する経費は、入会金、会費、寄付金及び雑収入をもって充てる。

(入会金及び会費)

第15条 会費は、入会金及び会費を次のとおり納入するものとする。

(1) 入会金 10,000円とし、入会の際に納入するものとする。

(2) 会費 年額1,500円とし、毎年度8月末までに納入しなければならない。但し、総会の開催される年に、2年分を一括納入することができる。

(特別会計)

第16条 本会に、特別会計を設けることができる。

編集後記

○会報原稿を下された方々、締め切りの迫った依頼を快く引き受けて下さり、有り難ございました。5号発行に無事たどり着きました。(静)

○今回は、皆さんに少しでも読んでもらえるように、そして反響があることを期待し、編集に努めました。一歩通行でなく、双方向性の会報になればと願っています。

FeO

○少しのお手伝いでしたが、田川や県大を身近に感じることができ、日頃仕事家事に忙しい身にとって新鮮でした。(MITUKO)

○今回の会報印刷にあたり、コピー機VS印刷所のバトルがあった。結果は、印刷所の勝ち！コピーは、少数の為にあるんだ。便利さ故のムダ使いに気をツナなくては...もことを学ばせてもらいました。(HN)

○卒業してまだ数ヶ月しかたっていませんが、先輩方に囲まれてみると、同窓会の仲間入りをしたんだなど実感しました。(AN)

○編集をちょっとお手伝いした〜とら感じてましたが、参加させていただけ、とても楽しかったです。次回も実を頼みます。！！(HIROKO)

○一太郎V8になったら、使い手の理解や技術は即座にバージョンUPできればいいのに。パソコンを使いこなしたのではなく、振り回された10日間でした。(信)